

会 議 録				
平成 19 年度第 6 回 社会教育委員の会議	日 時	平成 19 年 10 月 22 日(月) 午後 3 時 30 分～5 時 30 分	場 所	小金井市役所第二庁舎 801会議室
事務局	小金井市教育委員会生涯学習課			
出席者	委員	井土、伊藤、浦野、倉持、武田、田中、彦坂、本川各委員 (欠席) 小林、田尻各委員		
	その他	石川生涯学習部長、伊藤生涯学習課長、林スポーツ振興課長、田中図書館長、中嶋公民館長、松本公民館事業係係長		
	事務局	木村生涯学習係主事、		
傍聴の可否	◎可・一部不可・不可		傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1. 教育長挨拶 2. 報告事項 (1) 平成 19 年度都市社連協第 5 ブロック研修会の報告について (2) 議会報告 (3) 生涯学習推進計画実施状況について (4) 放課後子どもプランについて (5) 体育の日事業について (6) 図書館協議会委員の委嘱について (7) 第 48 回関東甲信越静公民館研究大会について (8) 第 60 回優良公民館表彰について (9) その他 3. 協議事項 (1) 管外視察研修について (2) その他				
1. 教育長挨拶 (向井教育長) みなさんこんにちは。10月1日付けで教育長を拝任いたしました向井と申します。よろしく願いいたします。学校から来たもので、どうしても生涯学習・社会教育に関しては暗いところがあり、今、猛勉強をしているところですが、幸い今年の春まで東京都の生涯学習審議会の委員を務め、勉強をさせていただいたので、少しでもお役に立てればと思っています。以前の討議の様子等を会議録等で拝見させていただきました。学校教育の支援に関して等、かなり活発な論議をしていただいていると受け止				

めています。本日の内容を見ても、放課後子どもプラン等、非常に大きく重要なテーマが議題になっておりますので、ぜひ皆様に論議を活発に交わしていただき、小金井の社会教育・生涯学習にお力添えを願いたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

2. 報告事項

(1) 平成19年度都市社連協第5ブロック研修会の報告について

(田中議長)

平成19年度都市社連協第5ブロック研修会が9月20日(土)午後3時から調布市文化会館たづくりにて行われた。調布市の岡田議長の挨拶の後、観劇をした。「家庭劇を通じて、父と娘、親子の絆、家庭のあり方等、家庭教育について考える」を第5ブロックのサブテーマとし、「めろん」という作品を観た。その後、ディスカッション・情報交換を行った。各委員から研修会の感想をお聞きしたい。

(伊藤委員)

「家庭教育を考える」ということであったが、家庭教育のベースは両親にあるのではないか。両親が家庭の中でやるべきことは次の4点であると考えます。一つ目は、家庭内での言葉や行動を注意すること。子供に対する注意の仕方は「叱る」のは良いが感情的になり「怒る」のは良くない。どうしてそういった事態に至ったのかということを知りたいので、じっくりと話を聞かせ、諭し、納得させることが重要だろう。二つ目に、どちらかの親がもう一方の親の悪口を子どもの前で言わないこと。むしろ、これまでこういった努力があって、今この幸せな家庭があるのだということをお話して聞かせるべきである。三つ目に学校や学校の先生等の悪口・批判めいたことを言わないこと。自分が子どもの頃先生に勇気付けられた体験等を子どもに聞かせてあげて欲しい。最後に草花や小動物の世話等を通して命の尊さを教えること。人間性の尊重・命の大切さ・社会に対する責任を教えることが家庭での役割ではないか。家庭教育というのはお金をかけることではなく、父親・母親の日常の言葉の中で実現できることである。

(浦野委員)

新旧の結婚観や家庭観について、その後の情報交換会の中で学生さんたちの現代の若者の新しい結婚観・家庭観を紹介してもらいたかった。現代の家庭の姿として、父親が忙しく母親と子どもの世界という家庭も多い。劇中では登場人物が母親と娘3人で、父親人形によって父親不在が象徴されていたが、母親が父親のことを語る場面では決して「父親不在=父親否定」ではなかった、という点が大きな救いになっていた。ただ、父親人形という存在は、人形なのでこちらから話しかけるだけで一方的であり、人形からは返ってくるものがない、というのが現在の家庭の一端・父親像を象徴しているように感じた。存在してはいるが不在の父親像なのかと思った。できれば、演じてくれた学生さんたちも交えて意見交換等が行えるとよかった。

(武田委員)

演出・構成について不快感を覚えた。自己責任のもと大人たちの人間模様を描くならいざ知らず、結婚式を控えた若い娘の不倫を助長するような設定をさも当たり前のように演じていたのは誤解を受ける。このような例はごく一部のケースではないか。父親が人形であったことについても今ひとつ理解ができない。娘たちに殴られ、蹴られても物言わぬお父さん。子育てから逃げている父親が多い中、近年は父親も子育てに真正面から取り組むべしとの論調が多数意見ではないか。

(本川委員)

なぜこのテーマだったのかと思った。この演劇を見たうえで、社会教育の観点からどうやってこれらの問題に取り組み、考えていくのかというのがとても難しい。人形というバーチャルでリアクションのないもので「父親」という存在を表してしまう怖さ、言葉遣いが普通だと思わせてしまう怖さ、これらを認めてしまうことの怖さ等を感じた。投げかける材料としては良いのかもしれないが、それが当たり前のように感じてしまうのは怖いと思う。結婚とはどんなものなのか、家庭の役割は何なのかということをもう少し掘り下げて取り上げて欲しかった。

(田中議長)

演出された先生にも確固たる答えがあるわけではなく、各々がよく考えるような機会を提案しているのではないだろうか。いるような、いないような父親というお父さん人形に自分を重ね合わせる部分があった。家にいなかったりすることが続くと、自分も「いない親父」になっているのではないかと思わされた。

来年度は小金井市が第5ブロックの研修会幹事市となっているため、ブロック研修会の計画・立案をし、実行していくことになる。

(2) 議会報告

(石川生涯学習部長)

平成19年第3回小金井市議会定例会における生涯学習関連の一般質問については、高木議員から「市営グラウンド少年用サッカーゴールポストについて」、五十嵐議員から「図書館の充実のために」、水上議員から「放課後子どもプランの充実と総合的な放課後対策を求める」、渡辺議員から「図書館改革に向け市長は動くべきだ」という内容の質問がされた。

(3) 生涯学習推進計画実施状況について

(伊藤生涯学習課長)

市では「小金井市生涯学習推進計画」を策定している。推進計画の進捗状況について8月3日から8月17日にかけて調査を行った。調査結果については別紙「平成18年度小金井市生涯学習推進計画実施状況」参照。各課の事業の中に推進計画を位置付けてもらうこと、各課の事業を生涯学習的な立場で見直しをしてもらうことが、調

査の主な目的である。推進計画は平成16年に策定され、平成20年度までの5カ年計画となっているため、21年度からは新たな推進計画が必要となる。来年度社会教育委員の会議の中で見直し作業をしていただきたい。

(伊藤委員)

展開見直結果の「移管」とは何を指すのか。

(伊藤生涯学習課長)

組織改正や事務事業の移管等に伴い関連事業が移管されたものを指す。

(倉持委員)

展開見直結果の「充実」以下の用語の説明をお願いしたい。

(伊藤生涯学習課長)

各課が事業について次年度以降どのような展開をしていくかを示したもの。「充実」は事業を更に充実させていくもの、「継続」は事業をそのまま継続するもの、「検討」は方法等を見直しするもの、「実施」はこれまで課題となっていたものについて前年度新たに実施されたもの、「廃止」「移管」については言葉通りの意味である。推進計画の中ではっきりと定義付けがされていないところがあるので、今後の推進計画の見直しの中で位置付けたい。

(4) 放課後子どもプランについて

(伊藤生涯学習課長)

詳細は別紙「平成19年度『小金井市放課後子どもプラン』について」及び「平成19年度放課後子供教室実施予定」参照。放課後子供プランは文部科学省から提起されているものではあるが、市としても「地域の子供は地域で見守る」という視点と、このような事業を通して地域づくりをするという視点の二つの側面から取り組みたい。今年度は、イベント的な事業から固定的な場所で定期的・継続的に実施する事業へ移行することをテーマとして取り組みたい。各小学校で月曜日から金曜日まで毎日実施できることが目標ではあるが、地域の実情や協力をしていただける方の状況等を勘案し、できるところから少しずつ進めていきたい。

(武田委員)

学校によっては、団体利用が多く、子どもたちが自由に校庭で遊べない現状がある。校庭遊びの実施状況に学校ごとに差がみられるが、指導方法に違いがあるのか。

(伊藤生涯学習課長)

地域子ども教室による校庭遊び以前からPTA等により自主的に校庭遊び事業が実施されている学校もあり、地域の特性によるものである。市内でスポーツをする場所も限られており、小学校等の校庭を使わざるを得ない面もある。限られた資源の中で個人利用と団体利用のバランスをとりながらやっていきたい。

(浦野委員)

放課後子どもプランと学童保育所の兼ね合いはどうなっているのか。

(伊藤生涯学習課長)

児童青少年課では放課後子どもプランに係る具体的な活動計画は特にない。小金井市では、新たな事業である放課後子ども教室と、既存の学童保育所及び児童館等の事業との連携を総合的に図る。児童青少年課の事業については、それぞれ個別のニーズもあるので、互いに緩やかな連携を取りながらすすめていきたい。

(5) 体育の日事業について

(林スポーツ振興課長)

10月8日の体育の日にスポーツ振興課事業を開催した。市民スポーツレクリエーションの集いでは昨年まで綱引き大会を行っていたが、参加者が固定化してきたこともあり、今年度は総合体育館の大体育室でキッズテニスを行った。小学生以上のペアを対象に150人を募集したところ、子ども178人、大人81人、合計259人が参加した。また、一昨年前より、総合体育館・栗山公園健康運動センター・市テニスコート場の各施設を無料で利用できる体育施設無料開放事業を実施した。事前募集により、合計928人の参加があった。この他に教育委員会後援事業として、NPO法人黄金井倶楽部によるスポーツ吹き矢等三種目を総合体育館で実施した。参加者は大人83人、子ども145人、合計228人。

(6) 図書館協議会委員の委嘱について

(田中図書館長)

第9期図書館協議会委員の任期満了に伴い、小金井市図書館協議会委員候補者選出要綱に基づき、小金井市図書館協議会委員候補者選考会議を開催し、第10期図書館協議会委員の選考を行った。委員は学校代表者1人、社会教育関係団体代表者1人、社会教育委員1人、学識経験者4人、市民公募3人の計10人。社会教育関係団体代表者は4団体から、公募市民は4人から応募があった。公募市民は、市報8月5日号で募集をし、論文テーマは「図書館の将来像」。平成19年9月10日に公募市民の論文審査、9月26日に第2回選考会議として公募市民4名全員の面接を行い、併せて団体推薦・学識者の選考を行った。選出された委員は別紙「第10期 小金井市図書館協議会委員名簿」のとおり。再任6人、新任4人、平均年齢は51.3歳、男女比は男性4人、女性6人。第10期図書館協議会の委嘱状伝達は11月12日を予定している。なお、任期は2年間で、平成19年11月1日から平成21年10月31日まで。開催回数は通常、年3回。任期は最長で3期までとなっている。

(7) 第48回関東甲信越静公民館研究大会について

[公民館長が第60回優良公民館表彰式に出席中のため、公民館本館事業係松本係長より報告があった。]

(松本事業係長)

第48回関東甲信越静公民館研究大会が平成19年10月11日(木)・12日(金)に栃木県宇都宮市にて開催された。今回の研究大会は第30回全国公民館研究集会 in とちぎとの合同開催となった。小金井市からは公民館運営審議会委員4人と職員1人の計5人が出席した。11日に開催された分科会では、10ある分科会のうち第3分科会「成人教育」に松本事業係長、第5分科会「人権教育」に大橋元明公運審委員長、第9分科会「生涯学習と公民館」に佐野祐美子公運審委員が参加した。全体会は、宇都宮市文化会館で12日の午前9時～12時10分に開催された。小金井市からは、公民館運営審議会委員の田頭祐子副委員長と内古閑裕子委員、松本事業係長が参加した。参加者は約1,000人。全国公民館連合会会長と関東甲信越静ブロックの表彰、審議官の代読による文部科学大臣挨拶及び栃木県知事・宇都宮市長の挨拶、文部科学省社会教育課長による施策説明、アトラクション、作家・立松和平氏による記念講演が行われた。なお、全国公民館研究集会の大会旗の伝達は、栃木県から次回の高知県に手渡された。また、第49回関東甲信越静公民館研究大会は、平成20年8月21日・22日に千葉市市民会館をメイン会場として行われるとの発表があった。

(8) 第60回優良公民館表彰について

(松本事業係長)

文部科学省生涯学習政策局長から東京都教育委員会教育長に平成19年10月1日付けで「第60回優良公民館表彰について」通知があり、「小金井市公民館、外55館」が被表彰館として決定した。小金井市公民館については、開館以来、市民が公民館事業に参画する企画実行委員制度を導入し、各種講座の企画をはじめ、公民館が行う専門的事項の調査研究など公民館職員と市民が一体となった公民館事業が実施されていること等が評価されたものである。表彰式は2人以内の参列となっており、公民館運営審議会・大橋元明委員長が公民館長に同行している。表彰式は10月22日午前10時受付～午後4時30分散散予定。場所は霞ヶ関ビル内東海大学校友会館。表彰式では、文部科学大臣より公民館長が表彰状を受け取り、午後に皇居にて天皇・皇后両陛下に拝謁、その後大橋委員長と共に皇居内の庭園を拝観する。

[中嶋公民館長が表彰式から戻ったため、館長より報告があった。]

(中嶋公民館長)

第60回優良公民館表彰ということで、本日文部科学大臣表彰を受けた。午後は皇居に移動し、天皇・皇后両陛下に拝謁した後、皇居内の庭園等を大橋委員長と共に拝観した。詳細については、次回の会議で改めて報告したい。

(9) その他

・第45回東京都公民館研究大会について

(松本事業係長)

昨年の東京都公民館研究大会は小金井市公民館が大会事務局として12月3日に第

二中学校で開催した。今年度は昭島市が大会事務局市となり、12月16日(日)午前9時受付、午前中に研究大会、午後6時課題別集会を開催する。申込みは10月31日(水)までとなっているので、参加希望者は公民館まで声をかけて欲しい。

3. 協議事項

(1) 管外視察研修について

(田中議長)

今年度の視察は平成19年11月21日(水)に羽村市の生涯学習センター「ゆとろぎ」に決定した。詳細について事務局から説明をお願いしたい。

(伊藤生涯学習課長)

11月21日の視察は、午後1時に武蔵小金井駅集合、午後2時羽村市生涯学習センター「ゆとろぎ」に到着、2時間程度視察と懇談を行った後、午後4時頃現地を出発し、午後5時に小金井着・解散の予定。事前に聞きたい点や必要な資料等あれば事務局まで申し出てもらえれば、羽村市と調整したい。

[視察の集合は11月21日(水)午後1時に武蔵小金井駅下りホームの東京寄りに決まった。]

(本川委員)

今回の視察はどのあたりをみてくればよいのか。

(伊藤生涯学習課長)

生涯学習センターの機能・役割・情報発信の状況・地域の人への参加しやすさ・どのように利用されているのか・センター設立後の地域の変化や地域への影響等に注目してもらえればよい。センターという物理的な場所がなくても、機能的な部分を参考にし、実現させることは既存の小金井の施設でも可能だろう。

(本川委員)

今後、小金井に活かしていけるような形で見学をしたい。小金井においても、生涯学習センターの器部分も実現ができるような方向に進むことを期待する。

(2) その他

・次期第5ブロック研修会について

(田中議長)

小金井市が平成20年度の都市社連協第5ブロック研修会の幹事市となる。研修内容等について今後決定していかなければならない。来年の10月前後に研修が行われることになると思われるので、委員の皆様と事務局の知恵を借りながら進めていきたい。予算は都市社連協から4万円が支給される予定。この件については今後継続審議し、場所・講師等の関係もあるので来春までには大枠を決めたい。過去のブロック会議の研修内容等が分かる資料等あれば提供して欲しい。今年度の研修会の人数については、座席数は各市10人分程度×6市で60席ほどだったが、欠席者等もいたので

出席者数は30人～40人くらいだったのではないかと。研修会終了後の懇親会には事務局も含め20数名が参加した。

(武田委員)

定例会以外にも必要に応じて臨時委員会等を設け、段取りや内容を決めたほうがよいのではないかと。

(田中議長)

平成20年度のテーマに伴って、サブテーマを作っていくことになると思うので、事務局と共に情報収集を行いながら早めに準備を進めていきたい。様々なアイデアを出していただくと良い。

(浦野委員)

社連協の統一テーマはいつ頃分かるのか。統一テーマとサブテーマの内容が余りにもかけ離れているのも良くないと思うので、統一テーマを勘案した上で内容を考える必要がある。

(田中議長)

決定は4～5月くらいになる可能性があるようだが、例年非常に大きなテーマとなっているため、社会教育に関する内容であればどこかに当てはまるのではないかと。

(伊藤生涯学習課長)

過去の研修会テーマについては各委員宛に送付することとしたい。次回の会議くらいまでにテーマについてアイデアを出していただきたい。

以 上